



| | |
|------------------|---|
| Title | 都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第2卷 |
| Author(s) | 鈴木, 栄太郎 |
| Issue Date | 1953 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/77411 |
| Type | manuscript |
| Note | 東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。世帯、地区集団、学校。 |
| File Information | N002_01S28.pdf |



[Instructions for use](#)

コ-アウ
ニユ-/-ト

NOTE BOOK

都市社会学

二十七年度

特殊清義案

第二卷

世帯
地区集團

字校

本（一）の内容

第三卷 第一節 都市の家族と世帯

第四節 地帯集団

第五節 学校及家庭

(職内、住宅、職場、業種、住宅三種色分け地図)

都市は七つの力。(都市の力) 米沢と布施
都市の発生 (都市の力) 米沢と布施
夕張ハルノ街 米沢と布施
米沢と布施

第十節 葬儀に於ける都市の生活

第十一節 都市住民の一生 (女性、年令層に
おける生活の型) (平物人)

第十二節 都市の年中行事

第十三節 都市住民の嗜好、海子
菓尾と平物人

第九節

各種住宅地図

第一 青年女子

而後 (住宅地図)

而後 (住宅地図)

都市の成り立ち

都市内の商店

第十三章 都市の社会集団と

住宅地図と住宅地図

第一節 都市の家族と世帯

第二節 職域集団

第三節 学校及い家庭

第四節 地区集団

第五節 生活社交集団

第六節 行政的組織

第七節 血縁、近隣、友人、知人の
定型的関係 (住宅地図) 援助

第八節 住宅地図 (住宅地図) 援助

救済に於ける定型的
住宅地図 (住宅地図) 援助

住宅地図 (住宅地図) 援助

の地域区分 (住宅、工場、商業、飲食、公共)

才三孝

才一節 都市の家族と世帯

十五宗族の正帯型一年次始
大帯宗族の正帯刑士一年始始

Lepidoptera の 2 種

1. patristical family

2. stem family

3. unstable family

2 種の手帳

Linton の 3 種

1. conjugate f.

2. conjugate f.

(Quotation. 2)

都市の家族生活. 岡村博士の著

(Quotation. 1)

二十九年三月 青木君よりホート

都市の家族生活の性質 宗族と宗族の又

P. 22 宗族の又 P. 35

農村には宗族がはつきりとあり先づその
位をたしむる。そのことは都市においては
色々の宗族機能が都市で脱落し去り

三九 純血縁には云つたが好む。我が

口には古くから私の一歩進歩宗族型が

一般の宗族型であった。即ち父夫妻 親父夫

妻と共にあるが、必ずしも一宗族をたし

片に存する宗族、代に原則として長男が

宗族を継承し次男以下の男及び長女下

娘達が婚姻を以て宗族を去り行く宗

族の型である。壽命も婚姻年齢差も取

りによつて一概には云へないが、大抵三世代位

この宗族は家田を土地に固定する方がよい。故
に形勢の急変を恐らくして之を不可成域に所が細
かな、今此を保つのは甚だ宗族あるのみなり。
尾津若松市如し。

都市定住世代多、
尾津若松市如し。
P.154 156

都市の居住形式をこゝで詳
述す。

の一族か一家をたし五六人の宗族を有する

はつて片一極宗族である。古くは夫の外の

子供、その外は父夫妻が同居して片の子女あり

あり。此形式の宗族型は家は永久に存

続し、原則的に一定の周知率を保持し

発展して片のみのあり。此宗族型は倍子

親族を念んて片のみのあり。此の宗族同族家

族型と異り又家か無限に存続し二種以上の

夫婦が同居し得る。夫夫婦宗族を曰ふ。

片の夫婦宗族は一般に歐米法に比して

小く宗族型は夫婦と子孫ののみを成す

婚姻と女に始まる婚姻の解体を免る

周知

周知の消滅

いゝ一代家族である。近代文明の基調を
たす自由主義、個人主義の発展に伴ひ此
夫婦家族が漸次一般化して行く。是も
然である。我かほんおこし日法以て西
洋文明的の道よりと本に比夫婦家族整は
少しがい済米國にてもその中にも事ある
時々此の如く解放運動が興つて來て
大正の一年半頃より婦人解放運動と云ひ
えらして都市の知識階級で可いといふ大
多の家庭に於ては、此の如く 自由主義の如く男力着せしめられ
然し現存の家庭生活を指導し進めよと云ふ
氏宗族型を導かれ
都市生活の発展が漸次此如くへ家族
型を採用するのを余儀なくして來てゐる

漸く其を廢して、其のるも明かき事し

對に都市には其新法の施行の如何に拘り

不飲に比其いし一型に向ふべき色んの條

作か加は、へ東ア、ある、このことある、其新

法と共に都市に於いては、^は何れも、^はけしく、^は宗

社新法、^は何れも、^はけしく、^は宗

凡そ都市の生活は、^はけしく、^は宗

しめ、^はけしく、^は宗

ロー、^はけしく、^は宗

都市には、^はけしく、^は宗

其の、^はけしく、^は宗

を存せしめ、^はけしく、^は宗

以上は両方
福を在り
智る

江戸は、人文的を最し、概して其の都市の
は、正に其の宗族を有し、たつたうか、ましく
都市を、時子、的、たれ、おけ、の、相違
文、に、違、が、た、う、け、た、れ、し、江、戸、時、代、を、て、の
と、其、の、都、市、と、こ、い、は、つ、パ、文、的、を、概、略、し、て
来、る、^{後の}本、の、都、市、と、い、は、何、か、著、しく、異
つ、た、もの、な、ま、あ、る、の、こ、は、た、か、の、一、部、に、は、ま、ま
宗、族、が、遺、存、さ、れ、一、方、に、は、ま、ま、を、概、略、す、
概、略、相、違、の、外、に、も、何、か、相、互、に、両、方、の、間、に
大、き、相、違、が、あ、る、の、こ、は、な、い、と、あ、ら、う、か、
相、違、の、大、き、な、相、違、は、都、市、を、概、略、す、
宗、族、の、間、の、中、一、方、に、は、地、回、社、会、を、概、略、と

たゞ一方には職域が女、松幹をなして
片の相違を認めるところである、この点については
は、後の論議をしよう。

私は右の様な予言を信じてゐる、
形勢が圓平と福島物白河市に
つゝ次の様な調査を済かす。此調査は
昭和二十七年夏に済ませ、
しのである。

さうなれば、
流石なところ、
父方母子を共に御す、
ゆかす、

ん 市井の 物事の 文方を 弄すべし 教

音を弄すべし 職場が 苦しい 限定の

水は 弄すべし あり 焼く あり は 父子や

天妻達か 軒折振へ 共同 経営 あり あり

ふは 国政 あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

Wm

△ 地し米のにおいし矢張り色へのつづり都市
 宗族は殿様を以て中心の結合を以て、リンスミス
 (Lynn Smith) の次の族名を以てして、
 然し是れは歴史的なフットノールニ行半歩で、
 に過ぎぬ。

澤山の集合世帯もあり、独立世帯やアパート
 も重復的使用され、未婚の人か家を以て
 片一の場合、都市社会においては世帯
 (household) と云ふ語は非常に使役である。
 (T. J. Gunn Smith and C. A. Mc Mahan,
 The Sociology of Urban Life, 1951)
 (p. 445-446)

を以て、その調査である。都市の歴史を
 見る、その調査は世帯の位とあり
 宗族を以て、そのはる宗族が、その形
 となし、その場合、そのあり、そのありの
 都市文化の研究には世帯は同じにして
 一戸あり。そのことは、その宗族即
 世帯である、その同一性は、そのありの
 ありのあり
 之が宗族と世帯の同一性を、その宗族
 が世帯より小なり。その場合、その宗族の
 他、そのあり、その宗族と世帯のあり、
 その場合、その宗族に他宗族あり

長岡市には調査したる九十二世帯の内
百三十七世帯が世帯と宗族と同一である。

世帯が宗族より少ないもの三十二世帯

が宗族より多いもの二〇、而して宗族の一

部が他にあって世帯の一部が同居して居

るもの三である。

白河市には調査したる百十三世帯の内

世帯と宗族と同一のもの七十一世帯が

宗族より少ないもの二十四、世帯が宗族より

多いもの十四、宗族の一部が他にあって

同居して居る宗族の一部が同居して居るもの

四である。

同居せしめし片の場合及び宗族の一部
が他に同居し、即ち他の宗族と同居し

せしめし片の場合の場合を調査し

て。

は調査したる長岡市と白河市

の一部を比較して調査したる

に、世帯と宗族と同一のもの三十二世帯を

調査したる結果は、世帯と宗族と同一のもの

は、世帯と宗族と同一のもの三十二世帯を

調査したる結果は、世帯と宗族と同一のもの

は、世帯と宗族と同一のもの三十二世帯を

調査したる結果は、世帯と宗族と同一のもの

※

① 世帯

主婦 世帯は直系家族の壊敗の一種

とも云ふ。右の調査の中には直系家族型

日の壊敗して片よりのもの夫婦

帯を余る片よりのもの相あるものは

る。即ち田舎に強し、片よる老父母を失

強し、自分達の家族員と認め、片よ

都市位らの若夫婦と子孫遠には

都市位に依る片よる自分達は家族の

一部を占めて、片よる片よる主婦

家族を正常型と見、場合には若夫婦と

子孫遠又は家族員全部の家族

たのる情を家族員を以て、とんない

向ふ、あるを、もて、とんない、家族員を

とり、同じには、新に之、とんない、は、た、

子孫の、
現在の都市

才二の、たの、家族、か、た、た、た、た、

この、の、代、取、を、調、査、し、た、也、其、中、は、

一般に五六代まで、の、世、宗、族、を、多、く、そ、れ

以上は、余り、存、続、し、た、か、い、様、子、也、。絶

家、と、な、り、機、能、を、失、つ、た、か、い、の、へ、あ、る、。

十代を、越、した、家、は、稀、と、な、つ、た、。

都市位、は、人、の、流、移、が、激、し、い、の、こ、ろ、

家の、存、続、も、短、か、い、と、な、つ、た、。

正階級と同じく新義意識の萌芽を

あり、世帯は社会的な存在である。

都市の家族制度は封建的調子を保ち
るが、絶えず中絶を繰り返す。法田名の
加増は考慮

若松佐良の世代を調べ、佐治兄弟を
世帯と家族の単位として佐治兄弟を
P.150 P.152 P.156

永位の志士への期待 佐治を際
P.159

今日では、家族の存続を必要とする
階級都市には、その必要は近代の
つかえ、これこそがその必要である。
程度、その必要は必ずある。

長岡市の調査では大佐三四代まで稀
六代七代の世帯である。村落の調査は
大佐、之ん下、之んと云つてある。こゝは
六三%までが一世代家族である。中村は
一世代家族がこんなにはない。豊村
の家は余りなくし、~~中村~~中村は
ない三四代が最も多い。ある。一世代
家族がこれ程多いところ、人の流別の

中村は余りなくし、
ない三四代が最も多い。ある。一世代
家族がこれ程多いところ、人の流別の

強しさを示す程けり。

白河市では一世代宗族が四七% 二世代

宗族が三二% 三世代宗族が一五% 四世代三

世代宗族で合計九五%を占め居る。古い世

代の宗族が僅かではあるが、^{その都市}の古さを物語

る。十七世代、二十世代の家もあり、^{どの向}

家の世代と宗族の或るや宗族の増減は

には多に異なり、^{相国}の向は現存する所を

白河の例によれば日本の大くわりの城下

町などの生活には家の存続を不可能な

くしむる様な条件が在り、今を以ては

その様な事。直子宗族は日本には都

市として存しねたのである。お孫せしめな
り、^{いかに} 都市生活は都市本来の性格であるの
なく近代的の12人の生活態度である
と云ふに至つたのである。

次に都市生活の中心は都市家族の
研究には、都市の家族が農村のそれと比し
て如何なる機能をも縮小して片よかんつこの
主たるつた研究がわけはなすぬ。宗教や

教育や生業活動や消費生活等において
家族が集團的に活動する機序は甚だしく
縮小して片よ。縮小を余儀なくせしむる

甚だの原因は近代産業の発達に依りて都市

△ 職域は主として他人同志の關係より成り立つ
て居るが、例へば相かく、或は他人の家族の吉凶
に對しては無關係に職域は主として他人同志の場
合も或るが、例へば、此の場合に於ては、職域は
に於ては、家系本位制の生活より成り立つる程度
が窺はれる。此に於ては、例へば、同族を
試み、或は、その結果を公にする、或は、私に
ば、或る順序あり。

- 一 親族の存在の都市に於ける家系本位制の存在
- 二 親族の存在の都市に於ける家系本位制の存在
- 三 職域の存在の都市に於ける家系本位制の存在

位階の職域集團の生活であると思はれる
が、此に於ては、^{たゞ}不定なものである。

都市に於ける家系本位主義の衰退も同じ
である。都市では家系本位主義の人の力の弱
い。

他人の評価に考慮される。市民の生活には
家は認められず、他人の力も弱まる。

ここに近代の職域は、例へば、
例へば、或る。又、或る家系より夫婦家系への
移行の姿が、此に於て見られる。

都市の不定な生活は、都市の本質を
明かにする。例へば、近代都市と其の近代都

市を比較して、例へば、日本の
例へば、

例へば、

#

紙張のものは都市の職場は戸役所か
甲のありて、役所から出た職場は
と、あつた。高工事は皆役所内で行は
れた。武士の才木勤習する場所を
これらおろすか、これととも主君の
役所が序の内であつたに、よるよる
おまゝ。

役所より役所内にはわかれ職場が
たのは、明治の工場の多き、移り
こころであらう。

都市には住居の自営から職場の
集まりに、家賃の多きものあり、
にか、職場中へにかつたのも、
行し、

又、明治の初めには、職場に
家賃を回すに、住居の自営の
か、回すに、住居の自営の
家賃の多きものあり、

家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の

家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の

家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の
家賃の多きものは、職場の

近代都市には家賃本位制は、
多量の許容し、行くと、思はれ
現在、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

こころ、人の文化は、他人を、
と、拒否す、一、事のは、都市生活の
行く、こころ、人の文化の、
て、あゝ。

この清中に比較のものがある。近隣
集団の一つの形態としてある。
信仰の深い経済生活知ん（集）
との境界を同するものなると此地は集
団の形態をとよめる。中世に
近世の色の方面に分岐がある。こ
れは、不連続不連続加入ではなへな、
原始的には不連続加入のようであ
る。その形のありとこゝにははた形式
によつてよいかうすの地区毎に細か
くある。土地の色の各戸が加入するこ
ろは、一定の年齢にあつた若者であら

は地区集団の衰退の程多^くなる
判別出来ないのであると思つて居る。

又地区集団の衰退に伴つて職域集
団の増大も亦注目すべき点の標
である。都市の近代化はそれと
共に一層として洋流して見^えて居る
のである。

地区集団は成長の準備と流動の
中心^{を條件として}の基礎となるものと見
られるが、それ等の條件を欠くもの
は都市の生活に於てはたゞのほゞ

である。然し大工場のある街の人

工場社会街の地区集団

△ 社会街の地区集団は企業主側は都合よき組織であり、これを元水に引寄せらぬ。日本の大企業に地区集団は、同業の比較的好む傾向をみるのは、先例が、行政担当者にとり、女よ、道長とならうね、その成立を各町でも、常設後援指導の程度、接明して来たか、あ、

これは又、比喩の條件を具備して居る、
この、
又、この地区集団の発達か、
然し社会街の内外を、
全く同様とあろう。△

地区集団として今日最も多く存在して居るのは、
一都市が一作とな、
その都市内の各町毎にも集団の活動、
あり。その活動が地区集団の活動である。

その都市を以て我々の考へ、
この地区集団は取扱はれ、
た、

近代的大

市口の都市に於ては地区集團は存在しない

のこみう。其地區集團に幾多類似して

Urban

の、その、その、neighborhood of the urban

community といふ問題と云ふべき。

此れ市口都市に於ては、neighborhood

は重要な問題である。集團といふもの。日本

の中心地といふもの近隣は、如何に於ては、

同である。それは如何なる問題と云へ。

其在中心地といふ近隣問題は一、この地区

集團である。幾何学上の隣地も地区集團

である。其中心地といふもの都市に於ては、近

隣は一般に異なる。如何なる場合か。

佐州松本市の近隣関係の如きは他、
（少し似てゐる。）

Quebec 教養文 Urban Community 3

その片よのは一つの都市をその統一軌に著
眼しし名づけし片よはなく、一都市内の
区分である。知しされは工場地帯住宅地
帯等と区分されし場合の如き地域区分を
以てする所也。例へば東京都に於て
認めたるは高層住宅区中層住宅区と云
ふが如く、その一地区内に日常生活の如き
中層住宅区が一地区をなす片よは、映画館小
キヤハレも盛り場も有れば郵便局も皆

を取らざるはそれと違つてある。

思ふに都市の外形を構成して居るのは職

場と居住とを主幹とし公共広場(公園、

道路(併せてを主とし)、河川)の三要素に軸線を以て

ある。此三要素を如何に配列するか、都

市計画の関心事である。職場にとつて地

区としては工場街、商店街、オフィス街

が、校街、歓楽街である。居住にとつ

て地区としては工場住宅街、細良街、

中流住宅街、高級住宅街がある。

職場にとつて相違は職場の種類、

相異を意味し居住にとつてその相違は

之として其社会的地位に於て。近時
都市計畫の於ては、民文化が叫ばれ居る。

王侯の居城も王宮を中心に出ま上つて居る。
都市の景観に對して庶民的市場や公園や
停車場を中心とする。庶民的都市の形は

しい景観が叫ばれ居る。日本の都市は
大部分封建時代の城下町で城が中心で

あり。(その一代の反逆思大宰治さへし神聖
輕のシンボルは弘前城をとり居る。)

民文化が進めば社会階層による住居地の
別共同とするより此問題を抱へてある。是れは

居住区は職能による分類を以てするの格

宛然と思われぬことあり。都市の混雑
執踏の一つの原因は職場と住居の離れて
居るにあり来る所也。

一般に都市に於ては道義が甚だ廢れて居
る或は少くとも都市の住民は主我的で
冷淡であるとするのは是としし地區集
団の性格あり来る所也と思はれぬ。

即ち村莊の人々が道義に於ては
村莊に於ける道義比之意識の拘束
が強かりてある。特に近隣集團の拘束
が強かりてある。大抵同族の生活より
村莊の生活で解放されて居るが如きは相

互にお互の方面の生活を知り合ふべき。

そこには積極的な世話をすべし。

期待される所も、互いに生活に立上り

互いに世話しあうのが持統の道徳である。

これに對して都市ではお互いに生活を尊重

し合ふと云ふ事である。互いに生活の内部に

立ち入りすべし。互に互に。

互に接吻を求め、互に互に。

互に接吻を求め、互に互に。

互に互に、互に互に。

互に互に、互に互に。

互に互に、互に互に。

強力でないと共に、近隣に北方意識の
拍子がないとよいうか、都市住民の意識
を弛緩せしめる所、根本的原因である。

互いに多國心を立てるとして都市には

近隣が繁達し得ないのほゝろ知つてある。い

近隣が繁達して居ないが互いに多國心

の感に於て大と小と。近隣が繁達し

たおかつた程度は他に考へるより少し知つぬ。

位置が隣りしては職名も地位も回替り居

るばかりでなく、移住が甚だ多し。そんな現

状のため近隣が繁達し得ない。故に互に邊

境として環流する多、近隣が成長し得ない。

そんなものをあつよのかし知れぬ。

又一層都市生活の各物事の安易さに

なれざるは集団の物事道義の物事の

中に下り込むを欲しなへ。故に都市民

はたとへ異質の流知性には多し。居たの

場合んしつとせつ近隣を作らうとなし。

熟時中んあつを隣を後進させよ此か一

部んあか、大部々の人では反対しつよ。

絶つ、集団的物事か、此れの内くとしらぬ

人の先法を相互に尊敬し合ふの如く、他人の

道徳で、近世に於ける民衆的發展は其れを

に他人を拘束し、其れを一つ一つはかきよ

ことである。近隣集団も都市とは既に
何となく水の集団のつてあった。今更それ
を復活せしめ、その反対の水は当然である。

都市住民は水の如く集団の多量力

〔即ち社会の生活は甚だしい生活〕

を多量とした生活をして居るのである。位

片の空間的巨量に甚だしく近い。その為

に都市の生活に於ける新業を共同する事は

甚だ多い。それは何によつて円滑にその

事から片々であるか。火事にあつて困る場合

村長には近隣の人も親族の人も村の人が

急務を救つてくわい。都市にはそんな隣

人があつた。したるいは流れた水を流すか。

商工街路令及の都市青年團の
一様 然るに政令の一部を地区集
団として考察するべきなり

△現の市水なく望む階路の商
業を叶へしむるより先づ

此の如く市役所町のその係りの人が
来りて世話をしてゆく。

宗の分の塵芥箱のつゞきは如何なるか
市役所の係りの人を来りて掃除して居る。

市民相互の互助の多き所なるに於て

愈々市役所は市民化す。同のこの空際

をうづめて片々構へある。或は市役所の

仕事は整理す。しつねに是れ市長相互は

互に互助の多き所なるに於て市民相互は

互に互助の多き所なるに於て市民相互は

互に互助の多き所なるに於て市民相互は

互に互助の多き所なるに於て市民相互は

互に互助の多き所なるに於て市民相互は

殊に如く同也

一、商店街組合は地区集団の種

二、都市青年團は地区組織より

戦場組織に移行して居る。

三、常工の地区集団の格闘台は然る

又、今五水なる情事一併し

四、中卒者のPT卒が都市地区集

団の新形態として殊に水より

殊に格闘戦の両組織が従前の水

つ、あり。

別等にすべしと

一、我々の隣地
の組織と活動

二、商店街
の組合

三、同業の
組合

四、青年
の組合

学校ありしころ中下しと都府ではないが
少くとも都府非と云いね、種の
と云ふのは、中下学校はあつたといふ
といふのである。

一世帯一 児童の平均が、五と一
五と十人の児童の平均が五と一帯
五と十人の児童の平均が五と一帯
四百五と十世帯、二と四と五と十人の人口
の平均が五と一帯、五と一帯が都府の
平均の規模と云ふ、これか都府の

都府の平均は、我々の構成するの
およそ、五と一帯の文化の発展には
機軸は、都府の平均の文化の発展
の機軸は、都府の平均の文化の発展
の機軸は、都府の平均の文化の発展

第三節 学校及の家族

二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、
かへして、市民生活を、
二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、

二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、
二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、

二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、
二二、学校を回るとするものは都府に於て
は、学校が、市民生活を、

平均年齢
市民の
平均年齢
市民の

#

又學校時代にて、本質的變生活の起りし
 學校生活に於ては人は此等の遺産の付承
 の為の教育されし。是れを以て人は吾等
 大體教育生活と平等な生活に於ては
 學校生活の次に於ては生活は強くと大體有學
 の生活である。此れは一般に考へよるべき
 正當の生活の型は有學の生活である。學
 校時代は元來予備時代といふのである。

大體教育の人は不長期に亘つて持続する事は
 此等生活の節操を以てするべきを認めざるを
 得ない。故に正當の生活の型としては結婚した
 る有學者の生活を以て可なりとする。然し
 學校時代及び其後の知識時代は有學
 時代の予備時代として正當生活の外に是れ
 ありしである。#

此等の型は同一の型に於て
 正當の型に於て

けれども、新大學校
 時代の及ぶその後の知
 識時代を以て正當生活の内に入るとは、その
 生活を以てする人々には同一の生活の型
 を認められ、而かも人々群は相當に高
 い比率を持して居るべきである。

その他の存在は有用を
認めない

△一定の生活の型をもちそれを抑える

鄰近し利用し合つて故に各個人

は互に上へ抑ふる水太り初期の

生活の型かゆさされ様になつて

より、その人な生活が次第の

此の形をとり、時々腐土を

まへが勝負を繰り出すやうな

の生活は異常な生活である。

人は皆一田舎者な生活の時代を

播くべき。二病者の時の生活は

田舎者な生活の時代は、田舎者を

その生活の形を生活の内に愛する

田舎者な生活の形を大いに愛する

のであつて、田舎者と生活とを

互に抑ふるべき。田舎者が

大抵一定した生活の型を

生活には、能くもなす。その

生活である。△

都市に生活する人の一先として、

この生活圏、学校時代の社会生活

時代及び、老衰時代の社会生活

として大抵の型を考へたことは

今、この幼少時代、学校の時代の

型、この幼少時代へ

直子宗族に比し倫を水にゆき
こころを制する事。

帯(我僕を暴く事)あり。

直子宗族と夫婦宗族を比較して何れが

より幸福に當るべし制する事か、こゝでは

同じ外(のり)「幸福」をかんか(も)比較

するに、は幼少の時の生活と老衰の時代の生

活世が何れの形での生活に幸福か多つかを

是よりよつてたしかめ(承)てあり。

直子宗族に於ては幼少(也)の世は一家の

祝福(也)なり、夫婦宗族に於ては幼少

は元環境の愛撫の中成長する存に

可小の多量(也)制限を試す、宗族とて(也)をす

即ち世帯とて世帯に入する甚く少者の知

人々の心を直接に握る。此を以てみるや

、是等は路上に於て近隣の児童群の中に

入る。近隣の児童群は時に其の児童を以

て含む子供群の合体するものあり、児童群

の交友の範囲は精々半至一町にも及ばぬ

お狭い範囲である。その都市の人々も如何に

大きくあつても其の交友の範囲は如何に狭く

居やるとも子供の世界は甚だ狭い地域内

に限られて居る。

近代の時代の或る職業的訓練の時代は

、是等は如何の民族に於ても然りしや。

又次の様な区からよ、この都市の区域を分けたい。約50%
7500

1. Rentals over \$50 Per Month or over 50%
tenure owned

2. Renting home area

3. Over 50% foreign white stock

4. Over 50% Negro

5. Major railroad and industrial property

この区を Rooming house area に一着 花柳病 中心、自殺を

かまふ。世間の人は若く未婚の白人、おウイトカ
ーの労働者である。此れその隣人も知らず、彼も
何もせず、何も云ふおかを知らぬ。これはキャハンカ
自殺の調査研究室に始りぬいた。

(R.S. Carson, Suicide (Chicago: Union of
Chicago Press, 1928) Synthesis, p. 399-50
又伝居によつて分けたい地区である。

界隈中央 (その中央にある) 後) P. パート地区

(口人以外人向) 借居地区とあるが、如し。

若松市の例加入

直系宗族制が中世的都市を死守して

居、様子を描写

都市化による直系宗族より、宗族の

移行する。又直系宗族の為に亡不可なり都

市に存続する。と云へる。佐治君澤文 P.149 佐治君澤文

直系宗族

直系宗族